からすやまこちのかい

―みんなで考え みんなで支える―

■神経発達症を研究するということ■

昭和大学発達障害医療研究所　中村　元昭

皆さまにはいつも研究活動へのご理解を頂きありがとうございます。私がこの研究所に副所長として赴任してから丁度５年が経ちますが、最近よく考えるのは、「何のために研究させて頂くのか？」という根本的な問いです。客観的な診断法を確立するため？革新的な治療法を開発するため？神経発達症の病態を解明するため？心理社会的な支援のエビデンスを構築するため？どれも大切なのですが、このままの方向性で良いのだろうかという気持ちも拭えません。病態がわかっていないまま、客観的な診断法を開発することにどのような意味があるのだろう？治療や支援は何を目指して行うのだろう？などなど。何か大切なことを忘れていないだろうかと日々自問しています。神経発達症はとても多様であり、的を射た治療や支援のためには個々の当事者のリアルな実体験に迫る努力が大切です。このために、医学モデル（身体的基盤）と社会モデル（社会的障壁）の双方から取り組む必要があります。

精神医学における医学モデルの研究はまだまだ道半ばです。神経発達症もうつ病もこの半世紀で増加の一途を辿り、これほど世の中に溢れているというのに、その病態メカニズムは仮説の範囲にとどまっています。毎年のように膨大な数の学術論文が世界中から報告されているけれど、医学でも科学でも病気そのものは説明できない謎の病気のままです。そして既存の治療法についても何故効果を示すのかを説明することはできておりません。プラセボ（※１）に対して統計学的に有意差を示せば、その治療は有効であると判断されるのですが、肝心の治療メカニズムは不問のままです。精神医学研究が拠り所とする脳科学や遺伝学は、時に無批判に受け入れられてしまいます。「医学」や「科学」や「エビデンス」などという言葉には独特の権威があります。その力によって精神や脳という未知な領域が解明されたかのような錯覚に陥っている場面が多々見受けられます。「科学的エビデンス」などと言われるといかにも信用できそうな感じがしませんか。しかしその実態は統計学であり、統計学にできることは解釈であり解明ではないのです。実態が見えていなければ、数字のトリックに容易に騙されてしまいます。研究者自身もその例外ではありません。脳画像や遺伝学を用いた精神医学研究の学術論文のほとんどは統計学が結論になっています。結果は統計値であり、結論は統計値の解釈であり、厳密に言えば結論ではなく推論なのです。いわゆるハードサイエンスと称される物理学や工学の研究者からすると、結論が解釈（推論）と言うのは何とも曖昧な感じがするでしょう。

※1 プラセボ：日本語で「偽薬（ぎやく）」と訳されることもあります。薬の評価を行う時に使用され、本物の薬と外観や味はまったく同じだが、有効成分が入っていないもの

社会モデルの研究についてはどうでしょうか。社会的障壁には、社会における事物、制度、慣行、観念などが含まれます。神経発達症の個々の当事者にとって何が社会的障壁となり、どんな調整や支援によってそれを軽減できるのか、ということを突き詰める研究が大切です。支援の方向性も重要です。定型発達社会に適応することに主眼を置くと、いわゆる「カモフラージュ」を強化するような支援になってしまい、当事者の精神的疲労を助長するかも知れません。ここで言う「カモフラージュ」とは、神経発達症当事者が定型発達社会に適合しようとする中で後天的に獲得する社会性のことであり、いわば定型発達者のふりをするといったイメージです。このような支援の方向性よりもむしろ支援者を含めた社会の慣行や観念の方を包摂的に変えていく必要があるのかも知れません。

内閣府の提言する「ムーンショット目標」(※２)について聞いたことがありますか？2050 年までに達成する９つの研究目標があり、全ての目標は「人々の幸福（Human Well-being)」の実現というビジョンに向かっています。AI ロボットやアバター、量子コンピュータ、地球環境の再生、気象制御、食と農の未来、疾患の超早期予測や健康長寿などが目標に掲げられています。私は目標９「こころの安らぎや活力を増大」の研究プロジェクトに参画しています。生物学系のみならず、工学系や人文系の研究者がチームを組んで、2050 年（次世代）のヒト社会を見据えた well-being の研究をするという壮大な計画です。私たちの研究チームは神経発達症に焦点を当て、理想の包摂的社会とは何かを追求します。第一弾として、工学研究者を中心として「自在ホンヤク機」と呼ばれる装置を開発し、多様な人々が互いを尊重し合えるツール（ひみつ道具）にできればと計画しています。

※2「ムーンショット目標」:第 35 代アメリカ大統領の J.F.ケネディがアポロ計画を発表し、人類を月面着陸させるという前代未聞の挑戦を有言実行したことから、困難は伴うが野心的で夢のある目標

コロナ感染拡大により「研究報告会」は延期になりましたが、近い将来開催したいと思います。当事者と研究者とが相互に語り合い、研究活動の先に見えてくるビジョンを共有できないだろうかと願っております。これからも研究活動へのご理解とご協力、さらにはご助言をよろしくお願い申し上げます。

■第９回 成人発達障害支援学会
－共感する、つなぐ、伴走する－■

会期：2022 年 12 月 3 日・４日　　会場：岡山国際交流センター

大　会　長：来住 由樹（地方独立行政法人岡山県精神科医療センター 院長）
副大会長：武田 俊彦（公益社団法人慈圭会 慈圭病院 院長）
副大会長：野口 正行（岡山県精神保健センター 所長）

学会二日目（12 月 4 日）には、昭和大学附属烏山病院発達障害専門外来デイケア担当の佐賀信之氏および同大学発達障害医療研究所の水野健氏が講師を担当するワークショップが開催されます。

ワークショップ
成人発達障害ショートケアプログラム研修会
１部　10:00～12:00　テーマ；

・発達障害とは　・診断・治療　・生活支援　・就労支援　・家族支援

２部　13:00～15:00　テーマ；

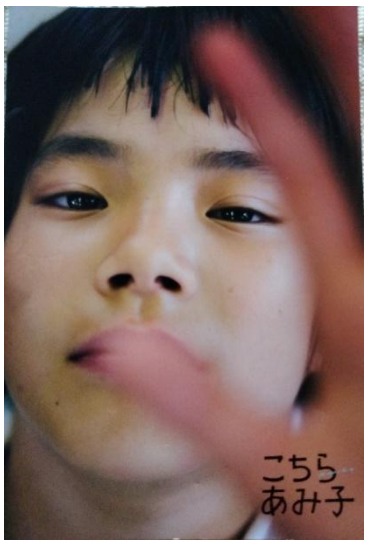
・プログラム概要　・運営方法・工夫　・ワークショップ（プログラム体験）

・参加者同士の情報交換会　（小グループに分かれて実施）

なお、１部・２部ともに参加された方には「修了証」が発行されます。

［参考］来年の学会（第 10 回成人発達障害支援学会）は神奈川県横浜市で開催されます。

■発達障害を描いた映画　「こちらあみ子」■



芥川賞作家今村夏子の同名小説が原作です。

父、妊娠中の母、２歳上の兄と暮らす 10 歳のあみ子は純粋ですが、相手の気持ちをおしはかることができず、きままなふるまいを続けます。明示はされませんが、ＡＳＤと思われます。周囲は振り回されつつも、ほどよくつきあっています。ところが母が流産し、あみ子が慰めようとしたことが逆に傷つけ、それをきっかけにあみ子にたいする周囲の対応はしだいに変わっていきます。それはそれでしかたないのかな、とも思わせますが少し悲しい。それでもグレてしまった兄のふとみせた優しさ、疎遠にみえたクラスメイトの男の子のおもいやりなどほっとします。

いろいろあった末に引っ越す一家。しかし引っ越し先のラストもなかなかつらい終わり方です。障害を描く映画は話を明るくしがちですが、今作は一味も二味も違います。それだけに心に残ります。（M．N）

■「烏山東風の会」今後のスケジュール■

何でもお話しください。心の壁紙の色と模様を替えてみませんか

東風の会では、感染状況を見つつ充分な感染対策をしたうえで一部の活動を再開しました。

■家族相談会　11 月 16 日（水）　12 月 14 日（水）午後 1 時 30 分～午後 4 時
烏山病院 発達障害医療研究所デイルーム
専門家ではありませんが、同じ親の立場として家族会世話人がお話をお伺いします。

■烏山東風の会女子会 11 月 26 日（土）午後 1 時 30 分～午後 4 時
烏山病院 リハビリテーションセンター

■参加当日は、コロナクラスターが発生した際の対策の為、お名前、住所等の連絡先の記載をお願いしております

■世話人会　11 月 26 日（土）12 月 24 日（土）午後 1 時半から
会員の方の見学、ご参加をお待ちしています。

◇相談会／女子会／世話人会の申し込み・お問合せ先

：「烏山東風の会」携帯 080-3009-1200　kochinokai@au.com

：「烏山東風の会」ホームページ：https://www.kochinokai.com お問合わせコーナー

■　会費振込のお願い　■

この会報誌は「烏山東風の会」に入会している方にお配りしています。10 月より下半期になりますので、下半期の会費をまだお支払いになっておられない方は、半年分 3000 円を以下のいずれかの銀行口座にお振り込みいただくようお願い申し上げます。

①　三菱ＵＦＪ銀行　永福町支店　（普）０１０６５５０
　　「烏山東風の会　会計　黒田邦夫」
②　ゆうちょ銀行　記号・番号：１００００－２９５７６５２１　「烏山東風の会」
お問い合わせ：黒田邦夫　０９０－４１７３－７６０４

デイケア写真館

コミュニケーションズプログラムについて

コミュニケーションズプログラムは、平日金曜日の 13 時 30 分から 14 時 45 分までやっているプログラムです。毎月第１金曜日に、その月に行う種目をメンバーで話し合い、それぞれのグループに分かれて活動しています。音楽鑑賞や卓球、ダーツ、麻雀、バドミントンなど、様々な種目で活動を行います。

その１つである音楽鑑賞では、みんなで自分たちのききたい曲をかけています。最初はデイケアに置いてある CD しかきけませんでしたが、もっと多くの曲をききたいという希望から、みんなでルールを決めてスタッフに交渉したところ、YouTube でも聴けるようになりました。そのおかげで、デイケアに置いてある CD 以外の曲や最新の曲もきけるようになりました。

また、音楽鑑賞のメンバーは若い人からご年配の方までいるので、普段自分がきいているジャンル以外の音楽に触れる機会が増えました。音楽鑑賞に参加されている 20 代の後半くらいの人が、さだまさしの「道化師のソネット」を流していたのでびっくりしました。僕もカーペンターズの曲や円広志の「夢想花」をきいています。毎週同じ音楽をきく人もいれば、違った音楽をきく人もいて、それぞれの方の曲への思い入れがわかります。これからもいろんな音楽をきいて楽しい音楽鑑賞にしたいと思います。